

# 生短芸 動物園 ウォッチ

## アフリカサバンナの名脇役!

# アフリカハゲコウを知っていますか?



動物園の動物たちの中でも、あまりなじみのないアフリカハゲコウ。実は、天王寺動物園内のアフリカサバンナでは名脇役として活躍しています。

(文:大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科 岐田愛佳、写真:同 今西舞)

### 知れば知るほど不思議

アフリカハゲコウはコウノトリ科で、水辺の地表を歩き回って食べ物を探す鳥の一種。「ライオンキング」の冒頭に「瞬だけ登場する」のですが、あまり聞き慣れない名前ですよ。

野生のアフリカハゲコウは動物の死体の肉を食べるので、頭の毛に死体の体液が付着しても固まらないように、頭部は毛が無くむき出しになっています。不気味な鳥だと感じる方も少なくないようですが、英名のマラブー(Marabou)はアラビア語を起源としており、イスラムの聖者や隠者という意味があることで、神聖な鳥なのです。動物園では主に鶏肉やアジをエサにしています。



くちばしを合わせ寄り添う2羽

普段は群れで生息しており、繁殖期にはコロニーを形成します。しかし繁殖が非常に難しく、天王寺動物園で一回に産まれる卵は3、4個ほどですが、これまで全て無精卵だったそうです。その分と言いつくべきか寿命がとても長く、飼育下で最長41年生きた例もあるのだとか。なんと江戸時代の日本人の平均寿命とほぼ同じ。びっくりですね!



飼育員さんが投げた餌を器用にキャッチするシローくん。お見事!

### つがいで寄り添う姿がかわいい♡

園内にいる2羽のアフリカハゲコウは、つがいで日中外で生活しています。同じ場所にキリン、エランド、ホロホロチヨウがいますが、常時外にいるのはこの2羽のみなのだそうです。

くちばしが欠けたシローくんは2003年3月、右の翼がないミットちゃんはそのちょうど3年前の2000年3月に入園し、どちらも正確な誕生日はわからないそうです。2羽とも昔に負った怪我が目立ちますが、今は飼育員さんのサポートのおかげで元気に暮らしています。

基本的におとなしくしていますが、おやつタイムには勢いのある姿が見られます。また、たまにくちばしをカタカタ鳴らす音(クワッタリング)を聞くこともできます。他の動物が暮らすエリアとは電気柵で仕切られていますが、たまに柵をくぐり抜けてしまい、

## 編集後記



岐田愛佳

前回のワライカワセミに引き続き、今回も少し不気味な鳥類を取り上げさせていただきました。今回は取材対象を決める過程ではじめてアフリカハゲコウのことを知ったのですが、自分で調べ、飼育員さんのお話を伺い、そして実際に目にしてどんどん好きになっていきました。その気持ちと魅力が少しでも伝わっていたらうれしいです。なお、写真はプロ級の腕をもつ今西舞さんの撮影です。ありがとう!

他の動物たちと接触してけがすることもあったそうです。  
2羽目当てで来園する人はなかなかいないとのことですが、おやつタイムなどのピーク時には2、30人の来園者が集まることも意外とサービスピ精神旺盛で、カメラを構えるつがいで寄り添ったり、運が良ければ大きな羽を広げたりもします。  
羽を広げる姿もかっこよく好きですが、個人的には寄り添う姿が気に入っています。シャッターチャンスが増えるので……。

未来のアートがここにある!

## 令和元年度 大阪芸術大学グループ 卒業制作選抜展

大阪芸術大学/大阪芸術大学通信教育部/大阪芸術大学短期大学部/大阪美術専門学校

会期: 令和2年2月21日(金)~3月1日(日)

11時~19時(入場は~18:30) 休館日2月25日(火)

会場: 大阪芸術大学スカイキャンパス(あべのハルカス24階)

<https://www.osaka-geidai.ac.jp/geidai/sotsuten/>